


<b>ドイツ連邦共和国</b>		首都	ベルリン
 <p>ドイツを統一しようとする運動が起きたとき、その先頭に立った学生義勇軍の服装（黒マント、赤い肩章、金ボタン）に由来している。</p> <p>独立：1990/10/3 東西ドイツ統合 国連加盟：1973/9/13 政体：連邦共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 35万7,000 km <sup>2</sup> （日本の94%） ヨーロッパ大陸のほぼ中央に位置し、地勢はおおむね平坦である。北部はハイデとよばれる氷食性の広大な北ドイツ平原、中部は森林性の丘陵、南部はアルプス山麓の高原とシュバルツバルトとよばれる森林に覆われた山地である。南東部には湖沼も多い。北部にはエルベ川、西部にはライン川、南部にはドナウ川が流れている。
		人口	8,270万人
		言語	ドイツ語（公用語）
		通貨	ユーロ
		気候	温帯に属し、北部は西岸海洋性、中部と南部は大陸性を示す。夏季は涼しく乾燥して快適な天候が続く。冬季は長く湿潤寒冷であるが1月の平均気温は0度前後である。
		民族	ゲルマン系ドイツ人 94%、トルコ人 2% ユーゴスラビア人
		宗教	プロテスタント 38%、カトリック 34% イスラム教 2%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連邦制をとっているドイツでは、州により学校制度が異なる。</li> <li>・小学校4年生までは基礎学校「Grundschule」で、5年生からは成績や家庭の考え方などに応じて進路が分かれる。小学校の成績により、小学校の担任と学校（校長）が能力に適したその上の学校を決める。希望する進路や学校と違えば学校と協議しなければならず、実際には4年生の1学期の成績で、担任は進む学校を提案し、3月には進む先の学校に入学の申し込みを済ませて、秋からの新学期に入る学校は決まっている。入試制度はない。</li> <li>・基礎学校修了後は、Gymnasium、実科学校（Realschule）、基幹学校（Hauptschule）、総合制学校（Gesamtschule）などに分かれて進学する「分岐型学校制度」が採られている。</li> <li>・大学に行くことができる資格「アビトゥア」があり、1度合格さえすれば、一生使える資格である。</li> <li>・公立学校は大学まで無償（教科書は有償）である。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シュタイナー学校は 12 年間、総合学校は 13 年間の一貫教育で、アビトゥアを受ける資格がある。</li> </ul>
義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6 歳から 15 歳までの 9 年間(一部の州は 6 歳～16 歳)である。</li> <li>・その年の 6 月 30 日までに満 6 歳になる者は、その年の 8 月 1 日に義務教育の第 1 学年に入学する。ただし、その年の 12 月 31 日までに 6 歳になる子どもも申請をすれば、入学テストを受けることができる。1～2 学年遅らせてもよい。その場合の進路も学校より説明される。幼稚園と相談してもう 1 年幼稚園に通ったり、Vorschule に通ったり、私立に入ったりのする。</li> </ul>
日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は 8 月 1 日～7 月 31 日である。</li> <li>・2 学期制を採っており、秋学期は 8 月 1 日～1 月 31 日、春学期は 2 月 1 日～7 月 31 日となっている。</li> <li>・授業は午前中で終了する学校が多いが、最近は午後まで行う学校も増えている。</li> <li>・小学校の科目は、宗教、ドイツ語、社会理科、算数、音楽、体育、図画工作、技術家庭である。</li> <li>・基礎学校 3 年生から英語があること、理科と社会科を合わせたような事実教授があること、宗教の授業（ベルリンでは選択、他の州では通常必修）があることが特徴である。午後にプロジェクト・デーという総合活動（遠足や環境学習など）がある。</li> <li>・総合制学校では、必修科目のほか、演劇、フランス語、ロシア語、ラテン語などの外国語、コンピュータなどの選択科目がある。選択の図工の授業では職業訓練を受けることもできる。</li> <li>・クラブ活動はほとんどない。</li> </ul>
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギムナジウムには 44%、実科学校には 25%、基幹学校には 21%、総合性学校には 10%が進む。</li> <li>・大学進学にはギムナジウム又は総合制学校を卒業しアビトゥア（大学入学資格）試験に合格する必要がある。大学進学率は 36%である。</li> <li>・アビトゥアは 2 回までしか受けることができない。2 回とも落ちたら、もう受ける資格はなくなる。</li> <li>・義務教育修了後いかなる全日制の学校にも通学しない生徒</li> </ul>

		には 18 歳まで定時制職業学校への就学義務が課される。
	就学前教育	・就学前教育は義務ではないが、3 歳未満の子は保育園、3～5 歳の子は幼稚園に通園する。保育園の就園率は 7%、幼稚園の就園率は約 90%である。
	その他	・放課後、13 時～14 時ぐらいまで、学校で子どもを預かってくれるシステムがある。子どもたちは宿題をしたり、保育者の下で遊んだり、時には工作をしたりする。 ・ドイツ語を母語としない子どもに対して、授業中の取り出し、放課後に特にドイツ語を教えてくれる「特別ドイツ語クラス」がある。
学 校 生 活	休業期間	・地方によって異なるが、夏季休業は 7 月～9 月、冬季休業は 3 月～4 月までである。春季、秋季休業もある。 ・長期休業は州によってその日程が違う。ドイツ国内すべてで休みを統一すると道路もホテルも混雑するので、ずらして休みにする。
	学級担任制、 教科担任制等	・教科担任制で、一人で 2・3 の教科を教える教師もいる。 ・クラスの世話役も一人いる。
	飛び級、落第の有無	・成績評価は通常夏休み前と 1 月に行われ、生徒たちに通知表が手渡される。評価は 1 から 6 までで、6 が 1 番よい評価である。4 までが合格とされ、5 や 6 の成績が多く、改善の見込みがないと判断されると落第することがある。 ・飛び級は少ないがある。
	教育内容の差異	・英語は 4 年生から学習し、フランス語・スペイン語・ラテン語など第 2・第 3 外国語として学習する。
	学校行事の特徴	・修学旅行は中学校、高校で行われる。
	給食	・授業時間は学年によって異なり、学校で昼食をとることができる。 ・給食がある学校は少ない。
	チャイムや号令	・小・中学校で、全ての授業の切れ目にチャイムが鳴らされる。 ・号令はない。
	教室における行動様式 等の違い	・全ての科目に宿題が毎日出される。
	校則	・小・中学校には制服や規則はない。 ・両親が認めたことはできるが、認めていないことはできない。

	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・授業参観はない。 ・PTA 活動はある。
	子どもの一日	・7 時頃起床し、午前中は授業、昼食、場合によっては午後 も授業がある。 ・放課後はクラブ活動をしたり、友達と遊んだりするほか、 部活動とは別に、サッカーやホッケーなどのスポーツクラブ に所属している生徒もいる。
	その他	・日曜には店が開かないため、家族と美術館に行ったり、サ イクリング等が多い。
生 活 習 慣 等	宗教上の忌避事項	・特にない。
	指による数え方、 計算方法の違い	・親指から数える。
	食生活	・米の代わりにじゃがいもを食べる。肉料理が中心で、魚は 場所によって食べる。
	衣服住居の違い	・都市部には、「ポーヌング」と呼ばれる集合住宅が多い。レンガ、 コンクリート、石の家である。
	交通規則の違い	・車は右側通行である。自転車は決められた路線を走る。 ・路面電車が多い。 ・電車やバスでもきちんと並び、車内ではみんな静かにしてい る。ドライバーのマナーもよく、クラクションはほとんど 鳴らさない。ウィンカーをあげると自然に道を譲ってくれる。
その他	・名前が1つ、2つ、時には3つある。名字は最後である。 名前に「〇〇さん」をつけて呼ぶ。 ・ごみの分別、休日は静かに音を立てないなどの生活のルー ルはきちっとしている。	

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・父なる国 ドイツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ジュッセルドルフ日本人学校 大野 美紀
- ・水と緑の都より ドイツのくらしと文化 ハンブルク日本人学校 寺島 貴幸
- ・海外日本人学校勤務経験教員より
- ・留学生より